

ねっとわーく

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- ・演劇を通して気づきを！
～日常生活で忘れがちな差別や人権～
……福岡市奈良屋公民館
- ・健康で心豊かに！
「いきいきふれあい学級～オトコの料理教室～」
……遠賀町中央公民館
- ・子ども育成塾
～体験活動を通して子どもたちの力をレベルアップ～
……筑前町公民館
- ・出会い・ふれあい・学びあい～公民館を“交皆歓”に～
……行橋市仲津公民館

こちら県公連

- ・第65回福岡県公民館大会事業報告

令和2年11月 公民館情報通巻148号

発行 福岡県公民館連合会

〒812-8575

福岡市博多区東公園7-7

福岡県教育庁教育振興部社会教育課内

TEL 092-643-3887

FAX 092-643-3889

特色ある公民館活動



人権を尊重する市民の集い
(福岡市)



オトコの料理教室
(遠賀町)



野外炊飯@宿泊研修
(筑前町)



学童交通安全指導
(行橋市)

演劇を通して気づきを！

～日常生活で忘れがちな差別や人権～

福岡市奈良屋公民館

【地域の概要及び経緯】

奈良屋公民館は、志賀島や玄界島行の市営渡船が発着する博多港に近い博多小学校区にあります。1998年、博多部4小学校が統廃合されましたが自治会組織や公民館は従来通り4地区別々に活動しています。

人口10,541人、世帯数7,572戸、高齢化率15.3%で“お1人様”が多く、若い世代の定着率が低い地域です。博多松囃子や祇園山笠等伝統行事を将来にわたって維持存続できるかという課題があります。都会の便利さを求めて来る人々は地域への参加に消極的な傾向があります。

【活動内容】

人権尊重問題や男女共同参画課題等々で、もっと解り易く楽しく積極的に取組めないか主事と模索する中、演劇を中心に挑戦する事としました。演劇講座を通算4年間開催し、演劇の初歩から脚本が書けるまで現役の劇団の指導を受けました。

講座最終日に「このメンバーで“やらの劇団”（ならやの逆読み）を立ち上げます」との不意打ち発言に歓声が上がりました。4年間に士気が高揚し、絆が醸成されていた様です。

「ランドセルと人生の色」「普通のおでんの作り方」の脚本で旗揚げ公演の稽古をしましたがセリフ覚えが間に合わず朗読劇となりました。劇は散々でしたが後のワークショップでは話が弾みました。顔見知りの演者に関心が高まっている事に手応えを感じました。

「博多区人権を尊重する市民の集い」実践報告は「みんなって誰？」「本日はお日柄もよろしく」で主事・館長の書下ろし作品です。

何れも観劇の方々へ押し付ける事なく“あなたも一緒に考えてみませんか？”という呼掛けで幕です。大変好評頂き福岡市人権尊重全市交流会や城南区他で再演致しました。

【成果と課題】

次の書下ろし台本完成をせがまれています、脚本家不足が悩みです。

地域の皆は、出演者も観客席も取組む姿勢や意識に微妙な変化が現れ研修の人員が増えて来ている所に新型コロナウィルスが襲来し、活動を中止しています。

気づきにより姿勢や考え方を変えて貰える演劇を念頭に『細くても長く！継続は力なり！』で頑張ります。



人権を尊重する市民の集いで講演から



劇を見た後のワークショップ

【問合せ先】 福岡市奈良屋公民館

〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町 1-6

TEL 092-271-4461 FAX 092-271-4468

健康で心豊かに！「いきいきふれあい学級～オトコの料理教室～」

遠賀町中央公民館

【地域の概要】

福岡県の北東部に位置し、町の東端には一級河川の遠賀川が流れる水と緑に恵まれた豊かな土地です。そのような土地で採れた農産物を使った「れんげ米」「菜種油」「赤しそドリンク」などの特産品は町内外からも好評です。また、「島津丸山古墳群」「遠賀川式土器」などの歴史的文化財、「がにはみ池のオニバス」も町の自慢の名所です。遠賀町中央公民館は町内唯一の町立公民館で公民館講座は主に当館で開催されています。

【活動内容】

「いきいきふれあい学級」は教育委員会主催で実施される事業の1つです。中でも、「オトコの料理教室」は遠賀町食生活推進会の皆さんをボランティア講師に迎え、地産地消をテーマに開催される毎年人気の講座です。定員は10名程で、参加者は60代後半から70代が多く最高齢は93歳！“オトコ”を対象にした理由は、定年退職を機に世間との交流が減り、会話も家庭内だけと引きこもりになりがちな世代の交流の場となればということからです。料理テーマは毎年変わりますが、この年は「免疫力UPメニュー」。栄養に関する座学もあり、慣れない手つきで下準備をし、危なっかしく包丁を握り、飛び跳ねる油にびっくりしながらの調理風景はアットホームで賑やかです。でき上がった料理を試食する時には、すっかり遠賀町食生活推進会の皆さんとも親しくなり楽しいテーブルとなりました。



【包丁を持つのも初めてです】



【和気あいあい調理風景】

【成果と課題】

「次回も楽しみだ」「また参加したい」という感想が多く、一定の成果が得られています。更には「妻の苦勞が分かった」「時には家族の為にも調理したい」と前向きな意見もあり、広い意味でもよいきっかけ作りができました。

リピーターが多いことはよいのですが、新規参加者を増やすため、いかに多くの町民に周知してもらうか、コロナ禍において今後はどうのように対策を行い開催するのかが今後の課題です。

【問合せ先】 遠賀中央公民館内 遠賀町民学習ネットワーク事務局
〒811-4392 福岡県遠賀郡遠賀町今古賀 513
Tel 093-293-1355 Fax 093-293-5533

子ども育成塾 ～体験活動を通して子どもたちの力をレベルアップ～

筑前町公民館

【地域の概要と経緯について】

筑前町は、平成17年3月に旧三輪町・旧夜須町が合併により誕生した町で、福岡県の筑紫平野の北部に位置し、面積約67平方キロメートル、人口は3万人弱です。従来は米・麦・大豆を中心とした普通作の農業地帯でしたが、近年は福岡都市圏や久留米広域圏に隣接しているという恵まれた立地条件を背景に、都市型農業も盛んになっています。また、夜須高原や目配山などの緑輝く高原や里山、美しい田園空間に代表される豊かな自然を生かした、魅力あるまちづくりを進めています。

そのような中、筑前町公民館では、町内の子どもたちに様々な体験活動や、地域での社会貢献活動を行う「子ども育成塾」を行っています。

【子ども育成塾】

子ども育成塾は、町内の小学4～6年生を対象に実施しており、様々な体験活動を行うことでジュニアリーダーの育成を図るとともに、地域で社会貢献活動を行うことで、規範意識や自尊感情を高め、社会の一員としての自覚の向上を図ることを目的としています。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、事業内容を縮小しての開催となっておりますが、昨年度は町内の保育園での保育体験や、福岡市民防災センターでの防災体験、福岡県立少年自然の家「玄海の家」での宿泊研修、町内の高齢者常設サロン（ひなたぼっこ）でのボランティア活動など様々な活動を行ってきました。

「ひなたぼっこ」での活動では、ボランティア活動の仕方等について社会福祉協議会から講義を受けた後に、実際にボランティア活動を行ったことで、より一層ボランティア活動への関心を持つことができました。また、高齢者との交流を図ることもでき、「みんなの笑顔が見られてうれしかった」などの感想も聞かれました。

【成果と課題】

開講式では控えめだった子どもたちも年間9回の活動の中で自分の意見を言えるようになったり、役割分担を自主的に行ったり、さらには上級生がリーダーシップを発揮し、みんなをまとめるなど、明らかに成長した姿が見られました。

子どもたちは本事業に参加し、様々な経験をすることで、自分で考え行動できる人に育ってくれると信じています。今後も工夫を凝らし、子どもたちの成長につながる内容を検討していきたいと思えます。



宿泊研修（野外炊飯）の様子



ボランティア活動の様子

【問い合わせ先】

筑前町公民館 朝倉郡筑前町久光951-1

TEL0946-24-8762 FAX0946-23-1034

出会い・ふれあい・学びあい
～公民館を“交皆歓”に～

行橋市仲津公民館

【地域の概要及び経緯】

行橋市は県東部周防灘に面した平野部を中心とした地域で、古くから北九州・中津・田川を結ぶ交通の要所として発展してきました。また、仲津校区ではいちじく、梨、桃などの果物の栽培を行っています。

仲津公民館では、青少年の非行防止、学童の安心通学など温かく見守る活動を中心に明るく笑顔あふれる街にするため、思いやり・人間力溢れる公民館運営を目指しています。

【活動内容】

仲津校区では、青少年健全育成のため、次に掲げる取組を行っています。

(1) 青少年健全育成支援推進大会

毎年9月に仲津小学校グラウンドにおいて、青少年を非行から守り、健全育成に努めようと、関係者が集まり式典を執り行うとともに、仲津小学校児童による鼓笛隊演奏を行っています。



(2) 夜間歩道パトロール

春休み・夏休み期間中に区長会や補導部会による夜間パトロールを行い、青少年の非行防止に努めるとともに、校区内の防犯活動・清掃活動に取り組んでいます。

(3) 新田原駅乗車マナー指導

仲津校区の中心部にある新田原駅では、春休み・夏休み明けの一週間、挨拶運動と乗車マナーの指導を行っています。



(4) 学童交通安全指導

仲津小学校周辺において、入学式の翌日から一週間、交通安全指導を行うと共に、新入生が安全に登校できるよう見守り活動も行っています。

また、上記以外にも、校区文化祭、校区敬老会、仲津校区体育レクリエーション大会などでは世代間交流を促進すると共に、住民が日頃行なっている活動や造っている作品を披露する場にもなっており、大変賑わっています。

【成果と課題】

各種行事や活動を実施する為には、区長会をはじめ、老人クラブ、ボランティア等地域を拠点に活動している各種団体との連携が必要不可欠です。今後はそれぞれの団体との連携を密にすると共に、団体の特色を生かした行事や活動を企画するなどして、より良い公民館運営に努めます。

【問合せ先】 仲津公民館

〒824-0026 行橋市大字道場寺1517番地1

TEL/FAX 0930-22-1001

第65回福岡県公民館大会事業報告（WEB配信）

【県大会テーマ】

『持続可能な地域づくりに向けて 公民館が進む道』

～「多世代の関わり」や「学校や各種団体との連携・協働」などをどう具現化していくか～

1 概要

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第65回福岡県公民館大会はWEB配信で開催することとなりました。配信期間は、令和2年10月5日（月）9：00から令和2年10月30日（金）17：00までとし、YouTubeの限定公開の形で実施いたしました。申込み総数は1,592名、視聴回数は885回に上り、コロナ禍における研修の機会のニーズの高さを感じました。

収録内容は、県公連会長と県教育長の挨拶及びパネル・ディスカッションです。パネル・ディスカッションは、宮城県や佐賀県など県外の公民館や昨年度の実践交流会で大変好評だった久留米市の公民館をオンライン会議システムの「Zoom」でつなぎ、本大会のテーマ『多世代の関わり』や『学校や各種団体との連携・協働』などをどう具現化していくかについて、協議していただきました。また、その後の座談会において、コロナ禍における公民館活動についてもお話をしていただきました。

配信期間終了後は、各市町村に配信した動画をDVDにして、配付いたしました。今回残念ながら期間中に環境が整わなかった方や時間がとれなかった方に見ていただいたり、改めて各公民館の講座等で視聴していただいたりするなど、御活用いただければと考えております。



【大会誌表紙】

2 パネル・ディスカッション

『「多世代の関わり」や「学校や各種団体との連携・協働」などをどう具現化していくか』

- | | | |
|-----------|---------------------|----------|
| ・パネリスト | 宮城県白石市斎川公民館 館長 | 畑中 多賀男 氏 |
| | 佐賀市南川副公民館 公民館主事 | 田中 みさ子 氏 |
| | 久留米市津福校区まちづくり協議会 総務 | 入部 昭生 氏 |
| | パルキッズ久留米大学 責任者 | 張 友樹 氏 |
| ・コーディネーター | NPO法人ドネルモ 事務局長 | 宮田 智史 氏 |

パネル・ディスカッションでは、『「多世代の関わり」や「学校や各種団体との連携・協働」などをどう具現化していくか』というテーマについて協議しました。

まずは、福岡県を中心にコミュニティづくりの活動をされている、NPO法人ドネルモ事務局長の宮田様から、テーマや視聴する際の考え方などについて解説していただき、その後参加していただいた各公民館の実践の紹介がありました。

討議①は、『これから「多世代の関わり」や「学校や各種団体との連携・協働」などを進めていこうとするときに何を手始めにやった方がよいか（やるべきか）』について協議いただきました。右のようなキーワードを掲げてもらい、それぞれのキーワードの意味を説明していただいたり、互いに質問したりして、キーワードを掘り下げていきました。

【討議①のキーワード】

久留米市津福校区まち協

「目標へのチャンス」

パルキッズ久留米大学

「遊び感覚で」

佐賀市南川副公民館

「目的を話し合いの中で見出す」

白石市斎川公民館

「地域の現状を把握」

討議②では、討議①を踏まえ、『継続的に「多世代の関わり」や「学校や各種団体との連携・協働」などを進めていくために、どのような仕組みや留意点があるのか』について協議していただきました。右のように、「惚れる」や「楽しむ」など、活動していく上での心持ちに関する点や「WIN&WIN」のように連携先との関係性に着目した点、また、「住民主体」といった主体がどこにあるのかといった点が、継続的にすすめていく上でのポイントとして挙げられていました。

【討議②のキーワード】
久留米市津福校区まち協
「惚れる」
パルキッズ久留米大学
「楽しむ」
佐賀市南川副公民館
「WIN&WIN」
白石市斎川公民館
「住民主体」

パネル・ディスカッション後は、座談会として、『コロナ禍の中、どのような活動をされていたか。また、どのような活動をしようと考えているか』をテーマにお話いただきました。終始和やかな雰囲気の中で、「つどう・まなぶ・むすぶ」の機能が制限される中で、これまでなら中々繋がらなかった遠隔地の方同士も、リモートならつながっていくことも可能になるというお話がありました。本編とは別の「座談会」という形でしたが、大変参考となるお話をたくさん伺うことができました。

3 視聴された方の感想

【パネル・ディスカッションについて】

- ・これまでの義務的、一方的な行事開催を大いに反省することとなった。若い人、子ども会、高齢者の連携した楽しい行事を開催していきたい。
- ・公民館を取り巻く状況については、公民館一つ一つ状況が違うので、あまり参考にならないのではと考えていましたが、違う状況の中にも自分のいる場所の問題解決に応用できる部分があると感じました。

【本大会の実施形態（Web 配信）について】

- ・わざわざ会場に行かずに参加できてよかった。Web でなかったら参加していなかったと思います。全体で2時間以上の大会でしたが、内容が細切れになっていて、少しずつ区切りがいいところで区切って視聴することができました。（飽きないし、疲れない）他地区の取組がとても参考になりました。
- ・現状ではこの方法でしかない。スマホは簡単に接続できた。田舎では自治公民館長はガラケーの方が多く、校区コミュニティセンターで集合して一緒に視聴してもらうなど工夫して参加してもらった。

【その他・御意見等】

- ・コロナ禍で試行錯誤しながらの開催、とても有難く思います。中止・延期してしまうのではなく、どうやったらできるのかをよく考えられていて、今後ほかの事業にも展開できると思います。どうもありがとうございました。

4 来年度に向けて

本大会を開催するに当たっては、公民館がこれまでに経験したことのない困難に直面し、何もかもが手探りの状態でしたが、皆様の御協力のおかげで、リモートという形ではありますが、実施することができました。心より感謝申し上げます。また、127名の皆様からはアンケートに御回答いただきました。たくさんの御意見・御感想、温かいメッセージをありがとうございました。

来年度は、全国公民館研究集会・九州地区公民館研究大会と兼ねる形で、福岡県大会を実施いたします。9月2・3日の2日間にわたり、福岡市の国際会議場で開催する予定です。大会冒頭の会長の挨拶にもありましたように、コロナ禍が収束を迎え、ここ福岡の地に九州各県の皆様と笑顔で集える日を夢見て、この未曾有の困難を乗り越えていきたいと思っております。

さらに実り多き大会となるよう改善に努めてまいりますので、今後とも公民館活動の充実・振興のために御協力いただきますよう、よろしく申し上げます。